

【キーワード】

〔施設種別〕 高齢者施設 障がい者施設 子ども施設 住宅
 〔運営主体〕 市区町村 法人 NPO 個人 〔補助金〕 内閣府 国土交通省 厚生労働省 ()
 〔建物形式〕 1棟単体型 複数棟集合型 団地型 〔建物状況〕 新築 増築 改修 一部改修 既存
 〔対象者〕 高齢者 障がい者 子ども ファミリー 多世代



写真1. 外観写真

身体に重度の障がいがあり、常時介護が必要な人たちの自立と安心の基盤となり、地域社会に密着した施設として開設。生活の中に充実感や幸福感を感じることができる施設を目指し、1人ひとりが生きていて良かったと思えるような支援をしている。共に生きること、支え合うことの中にこそ、喜びも幸せもあると信じ、そのことが実感できる社会の実現を目標としている。

施設情報

所在地：愛知県西尾市平口町大溝 75

施設種別：障害者支援施設^{注1)}

運営主体：社会福祉法人 歩々の会

事業内容（定員）：施設入所支援事業（32名）

生活介護事業（32名）

短期入所事業（3名）

日中一時支援事業（4名）

敷地面積：4,567㎡

建築面積：1,876㎡

構造・階数：鉄骨造・2階建て

居室数：30室

職員構成：約 35名（施設長・サービス管理責任者・
看護師・医師（嘱託）・生活支援員・機能
訓練指導員・栄養士・事務員・他）^{注2)}

運営開始：2002年9月22日



図1. 周辺状況（国土地理院より引用*）

周辺が田畑で隣接して「社会福祉法人せんねん村」の建物がある。施設へは西尾線福地駅、または上横須賀駅より徒歩25分を要する。



写真1. 施設外観

左：社会福祉法人せんねん村
右：障害者支援施設ピカリコ

注1) 旧法上の身体障害者療養施設

注2) 障害者支援施設ピカリコ HP より³⁾

運営概要

障がい者支援施設ピカリコは、身体に重度の障がいがあり、常時介護が必要な人たちの自立と安心の基盤となり、地域社会に密着した施設として開設された。各入居者の個別ニーズに応じて、外出で買い物やコンサートに

行くなど、生活の中に充実感や幸福感を感じることができる施設を目指している。

主たる入所対象者は18歳以上で障害支援区分4(50歳以上の場合は区分3)以上である^{注2)}。現入居者の大半が身体に障がいのある人で、知的障がいを重複する入居者もいる。

(以下、2009年5月29日ヒアリング時点の内容)

運営状況

入居者定員数は長期32人・短期3人に対して、現員も長期32人・短期3人である。入退所者は開設から7年の2009年時点では4人のみで、待機者は60人程である。短期入居者は140人ほどの利用登録があり、入れ替わり利用する。

日中の通所事業として生活介護も行っており、1日定員10人に対して32人の利用登録者の中から12～13人/日ほどが利用する。2009年4月までは月曜日と金曜日に事業を行っていたが、ニーズの増加で土曜日にも行うようになった。

建物について

居室構成：個室（一部2人部屋）

ユニットについて：ユニットで閉じると社会性がなくなる、障がいの程度でユニットに分けると刺激や助け合いがなくなり生きがいや意欲の低下などが生じる懸念があり、ユニットには分けずに完全な個別支援を行っている。

良い点／課題点

- ・利点：全体的に広く、明るい。施設内には交流の場が点在し、入居者同士の助け合いなどが誘発されやすい。
- ・課題点：通所利用者が増えてきているため、もっと広い空間が必要となってきた。

空間構成：火災時等の避難に配慮し、1階には入所部門、2階には通所部門を設けている。バリアフリーのつくりで段差がなく屋外に出やすく、軒を深くすることで雨が入り込まないつくりでもある。

□施設整備上の配慮点

- ・施設内の扉をピンク・ブルー・グリーンの3色を用いて明るい雰囲気づくりとわかりやすさに配慮している。
- ・1階部分が入居者の居室となる部屋についてはタイルカーペットにして足音を吸収できるようにしている。
- ・暗くなりがちな部屋は明るくなるような工夫をするなど、安全面における配慮がされている。

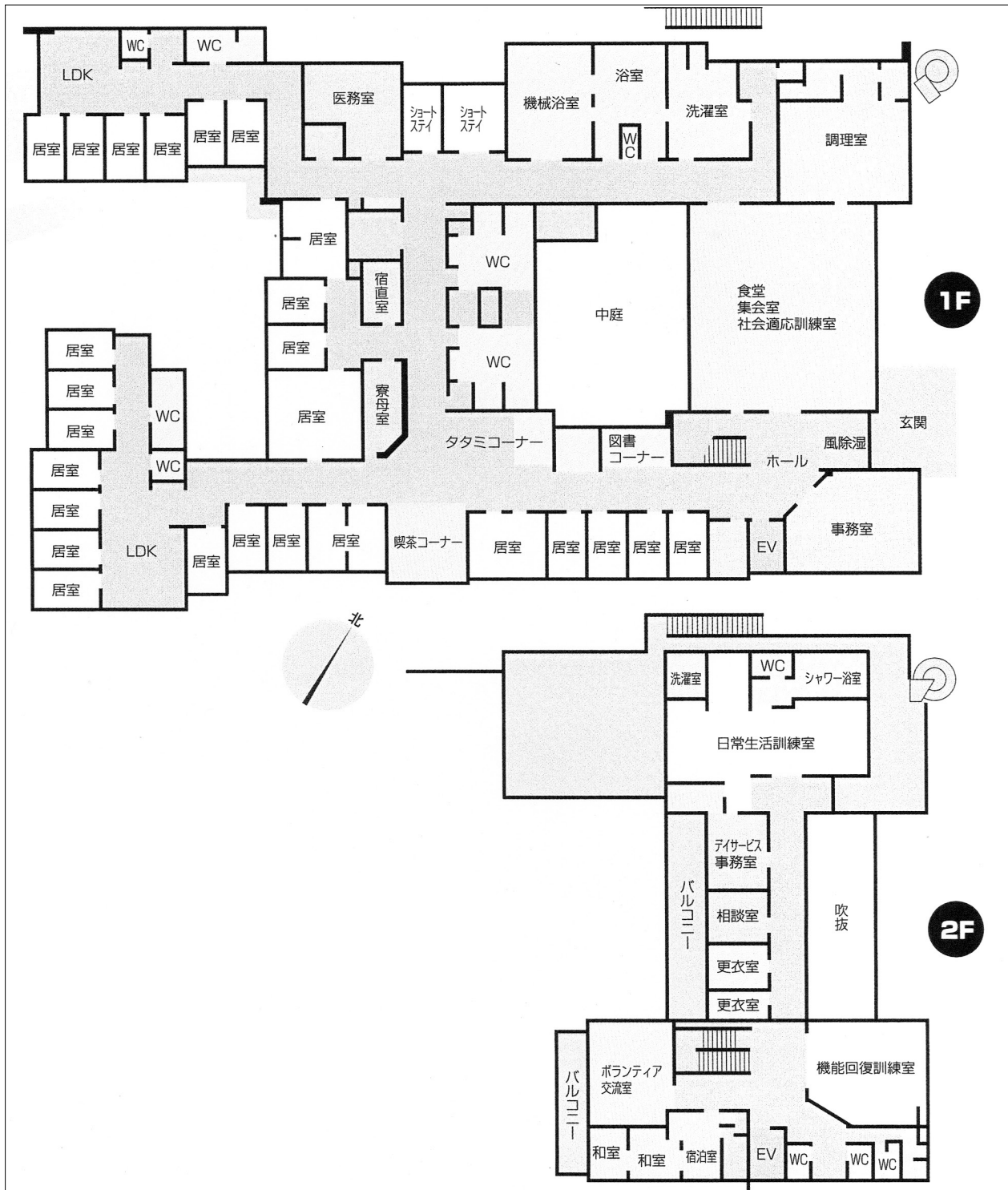


図2. 平面図 (見学時配布資料より引用)

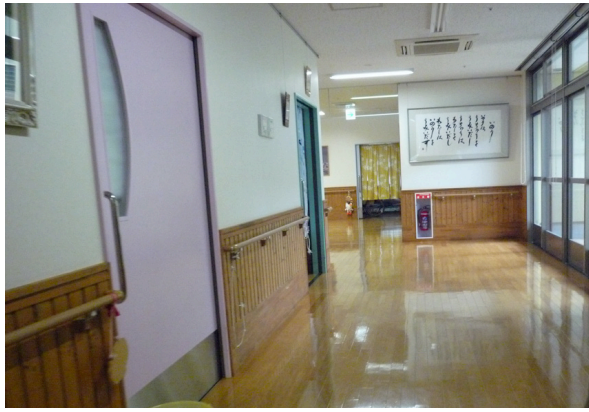


写真2. 扉の色

ピンク・ブルー・グリーンの3色を用いて明るい雰囲気づくりとわかりやすさに配慮している。



写真3. 玄関

外から中に入る時は玄関の扉が自動的に開くが、中から外へ出る時はボタンを押さないと開かないようにしている。



写真4. センサー

一人で外出するのが危険な人の車いすにはセンサーが付いており、自動扉が開かないようにしている。

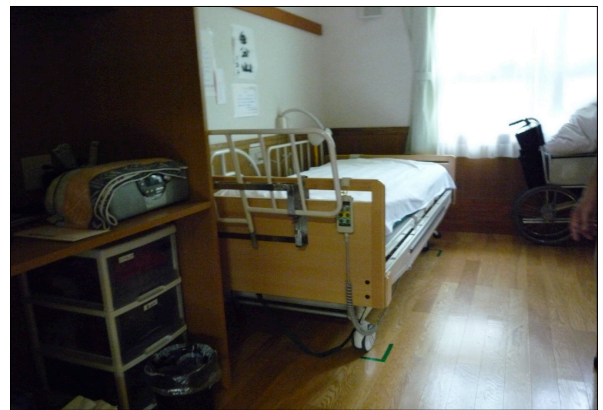


写真5. 居室の様子

12㎡超の広さがある。居室同士が対面しないようにし、プライバシーを確保するとともに採光・通風が確保でき開放感がある。また床は転倒時に怪我をしにくいようにクッション性を重視して、湿気を避けるために床下に炭を引いている。



写真6. 食堂・集会室・社会適応訓練室

広い空間の一部が吹抜けで、天井が高く開放感がある。床暖房を完備し、快適な空間である。床を塩化ビニルシートで汚れてもすぐに取り替えられ、清潔な空間を保ちやすい。厨房部は清潔エリアと不潔エリアを分けて衛生面に配慮している。



写真7. 中庭テラスの様子

中庭の下には防火水槽があり、テラスとして場所の有効利用しつつ災害時の設備を設けている。



写真8. 居室前のLDK

居室に面してある共用のLDK空間で、入居者の日中の居場所となる。



写真9. タタミコーナー

小上がりで舞台にもなるタタミコーナー。



写真10. テラスのオーニング

喫茶コーナーは屋外のテラスとも連続し、オーニング（日よけ）が設置された心地よい空間である。



写真11. 図書コーナー

車いすで利用できる図書コーナーにはPCも設置している。



写真12. オープンなスタッフステーション

タタミコーナーに対面するスタッフステーションはオープンなつくりで、見守りや職員間の連携がしやすい。



写真13. 浴室（個浴）

プライバシーを守るために一人ずつ入浴する。発作や感染症の対策にもなる。



写真 14. 浴室（機械浴室）
機械浴室も完備している。



写真 15. 2階吹き抜け部分の廊下の手すり
1階との吹き抜け部分での転落の可能性があるため、手すりを赤色にして目立たせ、分かりやすくしている。



写真 16. 屋上空間
屋上には避難経路を確保し、ビアガーデンでも使用している。

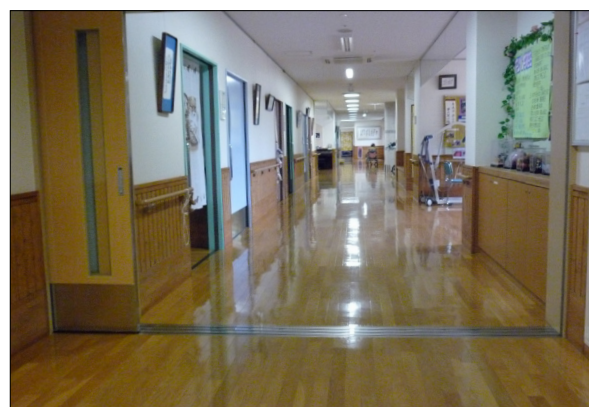


写真 17. 施設内の廊下
身体障がいのある人でも移動しやすいように、段差なくドアや仕切りが配置されている。

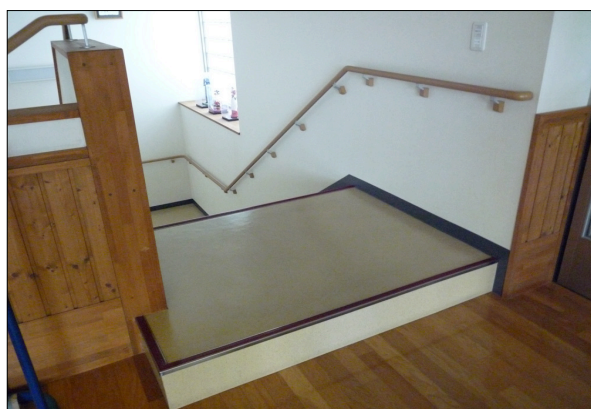


写真 18. 機能回復訓練室
2階の階段の降り場が一段上がっており、車いすでの転落を防止している。

多様な人たちとの共生について

身体障がいでも同じ症状の人はおらず、個別ニーズが求められる。知的障がいのある人との共同生活はリスクが大きい。身体障がいや重度だと何かあったときに危険を回避できないことがある。一方で、知的障がいがあっても気心の良い人とは一緒にいても問題なく、身体障がいのある人の車いすを押すなどのサポートも得られる。

高齢者やこども、知的障がいのある人たちとの交流会としてクリスマス会やウォークラリーなどをよく行っている。今後もそのような交流会を通して障がいの異なる人たちや地域の人たちとの交流の機会を用意する。

(作成者：東京電機大学 平尾笑香 2020.11
校正・加筆：古賀政好 2020.11)

■参考文献

- 1) 障害者支援施設ピカリコ HP <<https://sites.google.com/view/pikariko-j/%E3%83%94%E3%82%AB%E3%83%AA%E3%82%B3>> 参照日時：2020年10月31日
- 2) 見学・ヒアリング報告書 見学日：2009年5月29日
- 3) 国土地理院 HP <<https://maps.gsi.go.jp/#17/34.825691/137.050549/&base=ort&ls=ort%7Cseamlessphoto%7Cnendophoto2018%7Cnendophoto2017&blend=0&disp=1111&lcd=nendophoto2017&vs=c1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1&d=m>> 参照日時：2020年10月31日